

自然館だより

春の野草観察会 外来種健在

五月二十日(土)、野草観察会を開催しました。当日は十五名の参加者がありました。当初、十三日(土)の予定でしたが雨天のため、一週間延期しました。講師は、内田祐介さんです。内田さんは現在、森林インストラクターであり、北九州市立白野江植物公園に勤務し、日夜、全国各地の植物の生態研究に取り組んでいます。

まず、玄関を出て館の西側にある「保護植栽観察園」に行きました。ここには、島内であまり見られなくなった代表的な植物などを数種類植え



ています。観察園の前の池の水面には、デンジソウ(田字草)が、びっしりと生えていました。シダの仲間では花は咲かず、昔はやっかいな雑草

第8号

令和5年7月
発行
豊北町自然
観察指導員会
〒759-5332
下関市豊北町
角島 893-1
つしま自然館
083-786-0430
(兼 Fax)

だったそうです。よく見ると、田の字に似ているところから名付けられました。ダルマギクは、ノギクの仲間です。全国的には少なく、中国地方日本海側から九州にかけて分布しています。

駐車場を出て、隣接地にセイタカアワダチソウがあります。生存競争をして範囲を広げています。平尾台では、抜き取りをしています。その横にあるヨモギは数少ない日本産です。概して、島の植物は大型化する傾向にあります。少しキャンプ場へ進みます。トベラは傷つけると嫌な臭いがします。海岸の最前線に咲き、赤い



実がなります。古くはトビラノキと呼ばれ、祝島には、玄関に刺している家もあるという事です。スイカズラは、さわやかな香りがする。かつては砂糖の代用品。ハマゴウは、海岸の砂

角島の瀬戸のわかめは人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ

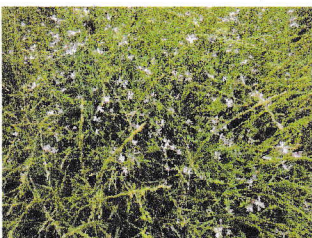
詠み人知らず

万葉集 第16巻(3871)



浜に群生します。砂に埋もれても負けずに伸びます。ハマニンドウはかなり珍しいとのこと。さらに進んでバンガロー前に来ました。ここでは、マンテマがたくさんありました。マンテマはヨーロッパ原産で江戸時代、観賞用に持ち込まれ

後に野生化しました。また、ハマダイコンは、ヨーロッパ周辺の原産であるダイコンが、シルクロード、中国を経て日本に伝わって来て野生化したそうです。ケカタ



バミは海岸に適用した植物です。カワラヨモギは黄疸の特効薬。日本では、セイタカアワダチソウやホテイアオイ等、外来種が問題になっていますが、逆に日本のク



ズなどは、世界中で悪さをしているというお話がありました。イタチハギは北米原産で、韓国(護岸工事に最適と採用されて使用)を経由して、日本に導入されました。自然館の周りを一周し

たのみですが、そこに咲く草花について、たくさんさんの情報を得ることが出来ました。

今回の観察会を通して、よく知られている植物でも、原産地を知ったり、外来種であれば日本へどのように入って来たのかを知ったりすると、その植物がより身近に感じられます。また、現在は、希少価値を持つものであっても、昔はかなり繁殖していたのかも知れません。逆に、以前希少だったりした植物が現在は、そうでもなくなったりと人為的、自然的な要素が今後加わって植物もどんどん変化していくことでしょう



う。参加者の皆さんにとっても、講師のお話が、たいへん興味深く、有意義な時間になったことと思います。最後になります。角島は北長門海岸国定公園に属します。植物の採取は、禁止されています。講師の内田さんは、植物は自生地で咲くのが一番良いと解説しました。私たちも、深く心に留めておきたいものです。

保護植栽観察園を見てください



角島には、

多くの植物があります。特に島に関係のある代表的な植物などを取り上げて保護植栽観察園に植えています。中には、絶滅危惧種に近い植物等もありますので、まずは、植物の特徴をじっくりと観察してみてください。

夏の市民フェスタ 8月20日(日)
「菊川ふれあい会館 アフニール」

市民活動センター主催の「夏の市民フェスタ」が八月二十日(日)、十時から十五時まで菊川ふれあい会館アフニールで開催されます。指導員会の日頃の活動を紹介したり、ワークショップ(貝殻の装飾品作り)を開いたりする予定です。都合のつく方は、参加してはいかがでしょうか。



五月十三日(日)、今年もダルマガクの挿し木を行いました。久村会員をはじめ協力してくださった方のおかげです。今秋もダルマガクの植苗を予定しています。ご協力をお願いします。



大浜海岸にクジラ現れる
七月三日(月)午前八時前、海水浴場の先に黒い背びれが見え隠れするのを確認しました。オキゴンドウだそうです。